

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	関西学院大学
整理番号	B-II-5
事 業 名	日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p>交流プログラムの枠組みについては、様々な協働教育を実施するためのプラットフォームとして、Cross-Cultural College (CCC) というプログラムを構築した特色ある取組であり、参加4大学が共同設置した運営委員会、教務委員会、及び外部評価機関であるアドバイザーボードによる質保証体制の下、Joint Seminar、Global Career Seminar、Global Internship のコア科目を中心として、協働教育が計画どおり円滑に実施された。また学内に「世界展開力推進室」を設置するなど、全学的体制で取り組まれていることも評価できる。</p> <p>目標の達成状況については、CCC の中心をなす教育プログラムである Certificate プログラム (CP) の日本人修了者数が当初伸び悩んだが、個々の参加学生をモニターし支援するための「CP 修了候補者進捗管理表」の作成や学生の英語力強化などの努力により、初期の計画どおりあるいはそれ以上に目標が達成された。また数値目標のみならず、本事業が目指す「世界市民リーダーズ」の育成についても、コンピテンシーの観点からその達成を評価しようとした試みは評価できる。しかし今後、個々の科目の評価だけではなく、事業全体として育成を目指す「世界市民リーダーズ」について、その具体的な内容は何か、そしてその育成の成果をどう評価するかなどに関し、参加大学間で一層の合意を得ながら進めることが望まれる。</p> <p>今後の展開については、本事業が従来から交流のある大学との協働事業であることや、相手大学を含め向こう3年間の独自の事業費が確保されていることから、当面の継続・発展が期待できる。また我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献については、参加国・大学数が限定されていること、比較的シンプルで焦点を絞った協働教育の枠組みであることなど、他の多くの大学にとって実施可能な協働教育の一つのモデル事業となっていると言える。本事業は、ダブルディグリーやジョイントディグリーの導入、異文化交流に加え専門教育の要素を加えること、国内外の他大学への事業の開放など多方面での発展の可能性を秘めており、今後そのような方向での努力が望まれる。</p>